

## 研究機関名：東北大学

受付番号：2015-1-8
研究課題名 腎病理・生検検体を用いた腎疾患の病態生理の解明
研究期間 西暦2014年 9月（倫理委員会承認後）2019年 8月
対象材料 ■病理材料（対象臓器名 腎臓 ） ■生検材料（対象臓器名 腎臓 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（ ）
上記材料の採取期間 西暦1993年 1月～2014年 8月
意義、目的 ネフローゼ症候群や各種腎炎など様々な腎疾患が存在するが、その正確な病態はいずれの疾患においても十分には解明されていない。また、これらの疾患においてはその発症や回復において腎発生及び再生に関わるメカニズムも関与していると考えられる。 今回、診断のために得られた腎病理組織や腎生検検体を用いてこれらの腎疾患のメカニズムを解明することにより、腎疾患の病態の解明や治療法の開発に寄与できると考えられる。
方法 1993年1月～2014年8月において、東北大学病院小児科及び腎臓・高血圧・内分泌内科で行った各種腎疾患の腎生検の際に得られた腎病理・生検検体を対象に下記の実験を行う。 1) 病理検体においては、腎疾患、腎発生、腎再生に関与すると考えられる蛋白質、サイトカイン、各種細胞などを免疫染色法などにより染色し、その発現量及び分布に疾患特異性、病期特異性が存在するかどうかなどを検討する。 2) 腎生検検体においては、蛋白質、各種細胞、サイトカインなどを抽出し、その含有量や各成分の組成の組成、細胞数、細胞種などに疾患特異性、病期特異性が存在するかどうかなどを検討する。また <i>in situ hybridization</i> 法などにより、腎疾患、腎発生、腎再生に関与する遺伝子の発現量や分布に疾患特異性、病期特異性が存在するかどうかなどを検討する
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学大学院医学系研究科小児病態学分野 担当者 熊谷直憲 住所 仙台市青葉区星陵町1-1 連絡先 022-717-7287